

2022 年 5 月 18 日
ノイルイミューン・バイオテック株式会社
ir@noile-immune.com

各 位

当社のパートナーである**Adaptimmune**社が米国遺伝子細胞治療学会（ASGCT）で
PRIME技術を用いた次世代型 **SPEAR T-cell**の今後の臨床開発を支持する
前臨床試験のコンセプト実証（POC）データについてポスター発表

がん治療の細胞療法におけるリーディングカンパニーである Adaptimmune Therapeutics plc（米国 Philadelphia, PA および英国 Oxford：以下 Adaptimmune）（NASDAQ: ADAP）が、MAGE-A4 を標的とする次世代型 SPEAR T-cell（ADP-A2M4N7X19）に関する前臨床試験のコンセプト実証（POC）データを第 25 回アメリカ遺伝子細胞治療学会年次総会 [American Society of Gene & Cell Therapy (ASGCT) 25th Annual Meeting] でポスター発表しました。

なお、ADP-A2M4N7X19 には、当社の Proliferation-Inducing and Migration- Enhancing (PRIME)¹ 技術が用いられています。

（発表概要）

次世代型 ADP-A2M4N7X19 SPEAR T-cells は、免疫細胞の増殖能、生存能、及び MAGE-A4 を発現する腫瘍への浸潤能を向上させることで、臨床での活性を増強する可能性があることを **in vitro** 前臨床試験データにて示唆

- MAGE-A4 を標的とする次世代型 SPEAR T-cells は、PRIME 技術が適用され、IL-7 および CCL19 を分泌するよう設計されている
- IL-7 は T 細胞の増殖能および生存能を刺激し、CCL19 は免疫細胞の浸潤能を誘導する
- 生体由来の T 細胞では、IL-7 または CCL19 を発現しない
- 次世代型 ADP-A2M4N7X19 SPEAR T-cells では、がん標的分子 MAGE-A4 の存在下でのみ IL-7 および CCL19 の産生が見られた
- ADP-A2M4N7X19 SPEAR T-cells による IL-7 の産生は、T 細胞の生存能を増強し、CCL19 の産生は免疫細胞の浸潤能を誘導した
- これらの特性は、臨床において抗腫瘍活性を増強できる可能性がある
- これらのデータに基づき、Adaptimmune は複数の固形がんの適応症において、ADP-A2M4N7X19 の第 I 相臨床試験を開始する予定

¹ PRIME 技術は当社から Adaptimmune へライセンス済み

【プレスリリース内容について】

- 本内容は Adaptimmune のプレスリリース情報に基づくものです。詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。
<https://www.adaptimmune.com/investors-and-media/news-center/press-releases>
- 学会報告に基づくものであり、論文化に伴い情報が変更される可能性があります。
- 本リリース内容には 1995 年の民事証券訴訟改革法（PSLRA）の「将来の見通しに関する記述」が含まれます。

以上